

令和7年度汚泥肥料化利用検討試験の栽培試験結果について

概要

- 犀川安曇野流域において、令和元年度より南安曇農業高校と効果検証試験を実施中。
- 令和7年度は、各種作物（米、小麦、花、野菜類等）の栽培試験を実施し、作物の生育状況と汚泥肥料の効果及び安全性を検証した。

栽培試験結果

(1) 米

【試験内容】

試験田に汚泥肥料区（施用量：200kg/a、73kg/a）、汚泥肥料＋単肥加里区、無施用区、化成肥料区（施用量：7 kg/a）等設け、稲（風さやか、コシヒカリ）を栽培し生育状況や収穫量を検証した。（風さやかは、汚泥肥料区（施用量：200 kg/a）、無施用区、化成肥料区のみ実施）

【結果】

2品種とも汚泥肥料区（施用量：200kg/a）は化成肥料区および無施用区より収穫量が多い結果となった。

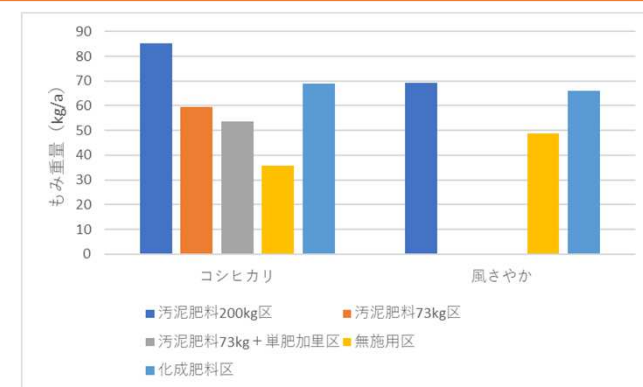
(2) その他作物

【試験内容】

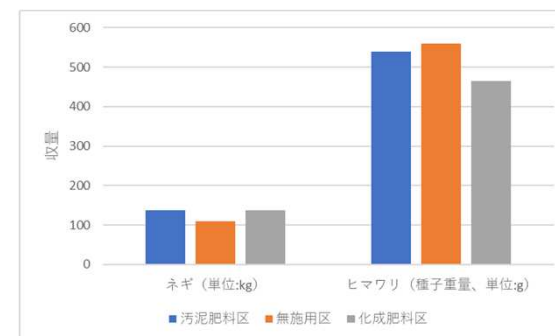
試験畑に汚泥肥料区、無施用区、化成肥料区等を設け、野菜類（トマト、ネギ）やヒマワリ、小麦を栽培し、生育状況や収穫量を検証した。

【結果】

野菜類は汚泥肥料区での生育や収量の結果が良いこと。ヒマワリは化成肥料区と比較して汚泥肥料区の方が良好な生育であることを確認した。



各施用区の収穫量（米）



各施用区の収穫量（ネギ、ヒマワリ）